

万葉図書・情報室だより39号

ほんの豆知識

装訂とは書物を読み物の形に仕上げることです。古代の書物は、糊のりを使ってまとめる方法（卷子本・折本など）と糸を使って綴じる方法（綴葉装・袋綴など）とにわけられます。

〈糊を使って綴じる方法〉

卷子本 かんすぼん。同じ大きさの紙を貼り合わせた巻物の紙を上を左を下にしてつないでいきます。『万葉集』の中で一番古い写本といわれている「桂本万葉集」は卷子本であることから、書物の装訂中で最も古い形態といえます。

折本

おりに貼り合わせ、一定の幅で折り畳んで最初と最後に表紙をつけた本。お経などにみられます。

〈糸を使って綴じる方法〉

綴葉装

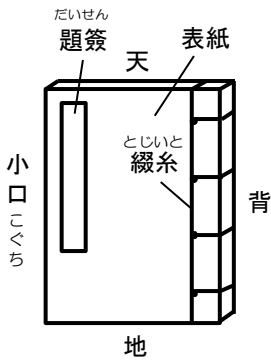
てつちようそう。紙を数枚重ねて二つ折りにし、それをいくつかさ重ねて折り目側を綴じた本。

『万葉集』では「西本寺本」があります。

袋綴

ふくろとじ。二つ折りにした紙を重ねて、折目と反対側を綴じた本。『万葉集』では、「神宮文庫本」「京都大学本」があります。

*糸を使って綴じた装訂の部分名称



本の大きさのことを書型（しよけい）といいます。

【大本】B5判に近いサイズ

【中本】大本の半分

【半紙本】半紙の半分

【小本】半紙本の半分

【枳形本】正方形に近い本

【特大本】大本より大きい（大型本ともいう）

【懐中本】袖や懐におさまる細長い横型の本

【特小本】小本より小型の本。（豆本・寸珍本・袖珍本ともいう）

豆本とはきわめて小型の本の総称。手のひらに収まる小さな本。日本では、江戸時代に婦女子向きに作られました。明治時代には絵本の豆本が、第二次世界大戦後には地方色豊かな豆本が作られるようになりました。

印刷技術の進歩により、一九六五年には3・5ミリの極小サイズの豆本が作られるようになりました。図書・情報室では、いくつかの書型の本をご覧いただくことができます。

秋には「豆本作り」のイベントを開催します。手のひらサイズのすてきなオリジナル豆本を作ってみませんか。本の作り方を知りたい機会です。是非ご参加ください。

オリジナル豆本をつくらう！

10月5日（日）
14:00 ~ 16:00

- ・参加料/材料費のみ
- ・要事前申込（申込方法はホームページ確認）
- ・先着10名程度

参考文献

- ・古典籍が語る 山本信吉著
- ・古典籍研究ガイドンス 国文学研究資料館編
- ・私の稀観本 今井田勲著

○新着図書案内○

- ☆古代の暦で楽しむ万葉集の春夏秋冬（東茂美／笠間書院）
- ☆飛鳥・藤原と古代王権（西本昌弘／同成社）
- ☆古代日本の衣服と交通（武田佐知子／思文閣出版）
- ☆正倉院美術館（杉本一樹・米田雄介／講談社）

利用案内

- 開館時間 午前10時～午後5時半
- 休館日 1月曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始・展示替日
- 図書室のご利用は無料です
- 閲覧でのご利用になります。
- コピーサービス 白 黒一枚 10円
カラー一枚 50円
- 奈良県立万葉文化館万葉図書・情報室
- 奈良県高市郡明日香村飛鳥一〇
- 0744-54-1850（代）